

防災WG検討スケジュール

平成21年11月20日(金)

1. 災害リスク情報見える化のロードマップ

H20年度

基本的な枠組の検討

- ワーキンググループの立ち上げ(産学官から広く構成員を募集)
- 今後の進め方について検討
- 参考となる海外の取組事例について調査

H21年度

データ等規格(素案)の作成・ポータルサイトの仕様検討

- 規格化ガイド文書(素案)の作成(データ仕様・メタデータ仕様)
- 一部災害リスク情報等 のメタデータ及びデータの規格素案の作成
地震・土砂災害・水害・公共交通被害を想定
- データ流通のための基本構成・機能仕様を検討
- 用語辞書の整備環境、一部用語辞書の整備

H22年度

試験運用・データ等規格素案の検証・改訂

- ガイド文書・規格(素案)の検証・修正(H21年度に作成した素案について実施)
- 規格化の対象範囲の拡大・規格(素案)作成
- データ流通のためのシステムのプロトタイプ構築・試行運用
- 運用ルールを検討(ex.データの登録ルール)
- 用語辞書の作成(継続的に実施)

H23年度

対象範囲の拡大

- 規格(素案)の修正(継続して意見募集)、規格化の対象範囲の拡大・規格(素案)作成
- 流通させる対象データの範囲拡大・機能仕様見直し(試験運用の結果を踏まえて実施)
- 品質評価方法の確立(運用ルールの検討を踏まえて実施)

H24年度

実証実験の実施

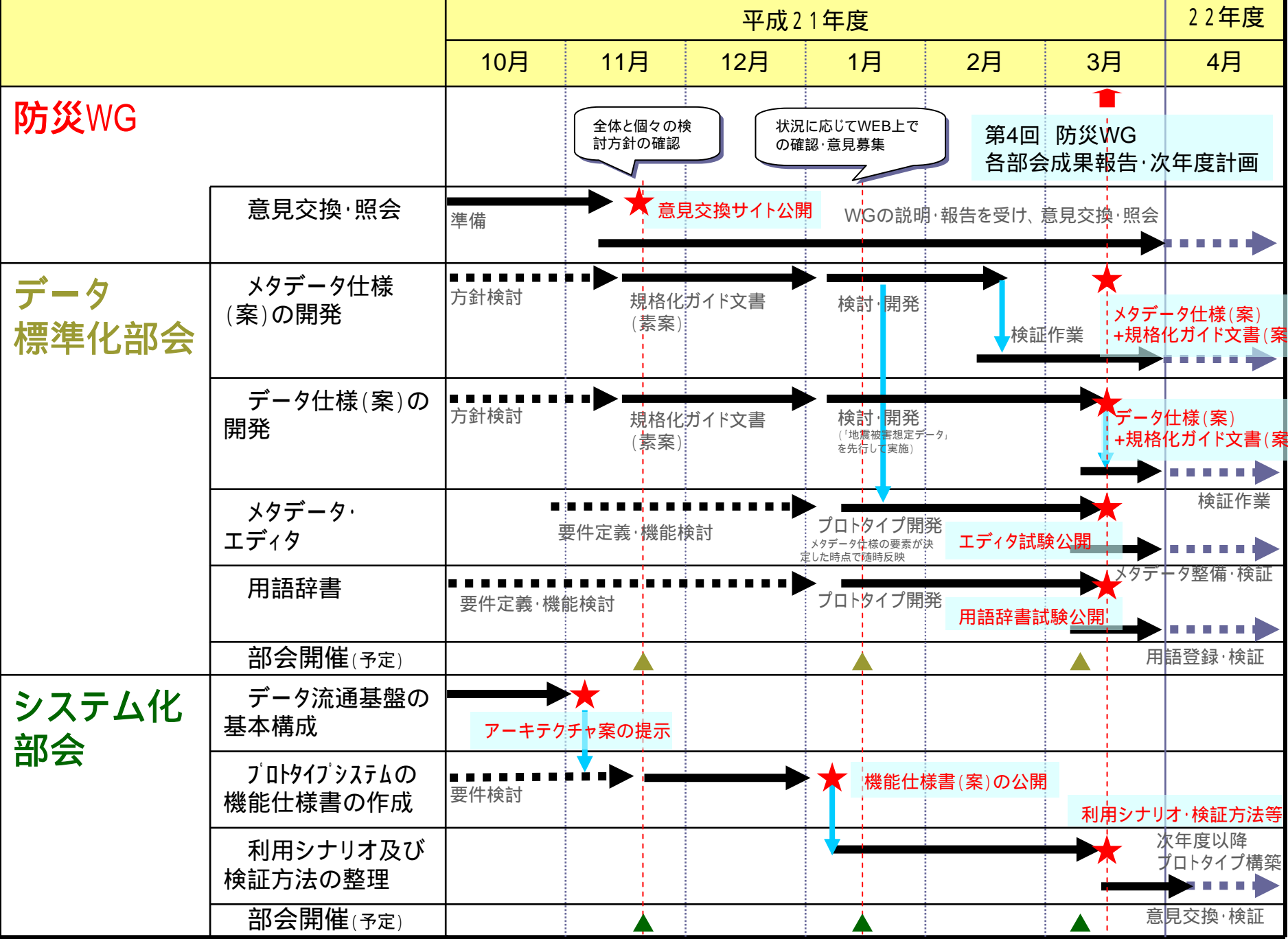
- 社会還元加速プロジェクトタスクフォースと連携して、実証実験

2. 全体計画における今年度の位置づけ

- 2008年(H20)から2012年(H24)までの5箇年計画の2年目
- 今年度は以下の事項を中心に実施(詳細は資料3)
 - ◆ 災害リスク情報等を広く流通させるための基本構成・機能等の具体化
 - ◆ 利便性の高い災害リスク情報等の整備・流通に資するデータ仕様、メタデータ仕様等に係る規格化作業(一部の災害分野)

今年度は、『地震被害想定データ』、『洪水リスク』、『土砂災害リスク』、『道路・公共交通機関被災情報』の4つの災害リスク情報等について実施。特に、『地震被害想定データ』について先行的に検討・作業を実施

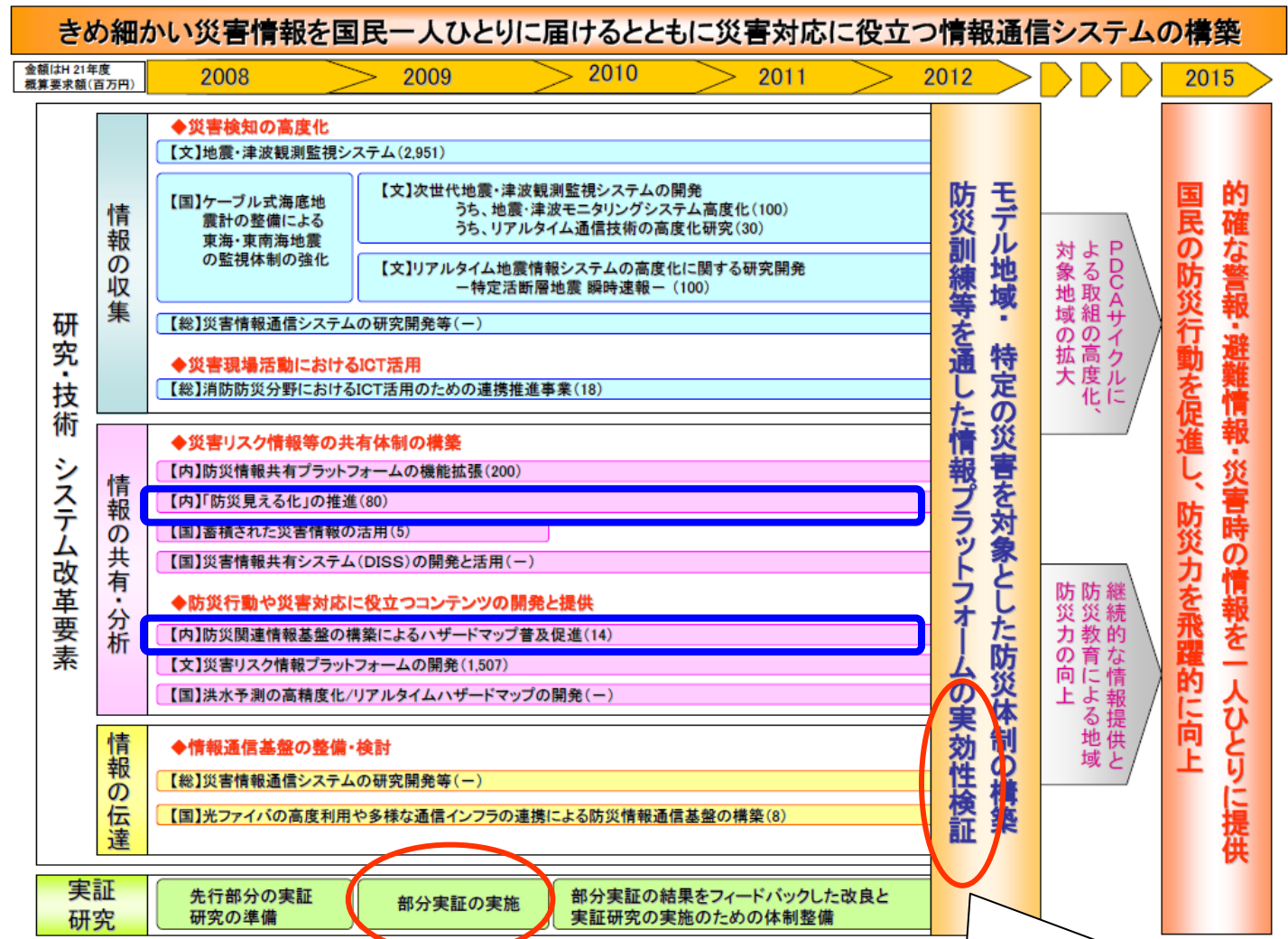
今年度の具体の実施内容については「資料-3」の通り



 アウトプット
 ★ マイルストーン
 今年度検討
 今年度開発
 次年度継続
 → クリティカルパス

3. 社会還元加速プロジェクトとの関係

(総合科学技術会議) 社会還元加速プロジェクト「きめ細かい災害情報を国民一人一人に届けるとともに災害対応に役立つ情報通信システムの構築」における実施スケジュールとの関係



2009～10年度: 部分的実証

2012年度: 具体の実効性検証